

健康で安心感のある暮らし

分類	発言順	会派名	質問者	大項目	中項目	小項目
保健・医療	①	会派 未来	竹田 恵	1 本市の定住・移住対策支援事業等の現状における課題とその対応策について		ウ) 医師不測解消の一助として三次市医師育成奨学金に対し、現状の申請状況をどのように分析しているか。
	④	日本共産党	伊藤 芳則	2 今後の国民健康保険について	(1) 本市における国保税の価格改定について	ア) 国保税は値上げになるのか、その理由について伺う。
	⑨	清友会	保実 治	2 心不全対策のBMP検査について	(1) 令和6年度の状況について	—
				3 子宮頸がんワクチンのキャッチアップ接種について	(1) 本市における状況について	ア) 期限が迫っているが当事者への周知について伺う。 イ) 予防接種の記録は法定では保存期間が5年となっているが、経過後も保存を続けている自治体は多い。本市の対応について伺う。 ウ) 厚労省が昨年11月27日期限を令和8年3月まで延長すると発表したことへの対応について伺う。
	⑩	明日への風	増田 誠宏	2 国民健康保険診療所と小児科診療について	(1) みよしこども診療所の運営について	ア) みよしこども診療所の運営について、開設当初の利用見込みと比較して現状はどうか。 イ) 安心して子育てできる医療環境整備の観点から、土曜日の診察を検討する必要があるのではないか。
					(2) 国保診療所への支援体制について	ア) 医師やその他職員の勤務体制について、休暇取得時の診療継続や代替支援の体制は十分に整備されているのか。 イ) 各国保診療所の厳しい運営状況を踏まえ、地域の診療所を守るために利用促進に向けての取り組みが必要ではないか。
	⑪	明日への風	掛田 勝彦	1 本市のオーラルフレイル予防事業について	(1) オーラルフレイル予防事業の評価と今後の取組について	ア) 市長が令和5年の2期目の所信表明で「市民超元気計画」を策定すると掲げられたが、第2次三次市健康づくり推進計画との違いは何か。その違いを踏まえた具体的な施策を伺う。また、この計画が市民にどのような影響をもたらすのかを伺う。 ※ 上記の質問は削除するかどうか検討中です。 イ) 第2次三次市健康づくり推進計画には、令和4年度の健康寿命の記載がある。本市の健康寿命は全国及び県平均をわずかに下回っている。この要因と課題について伺う。また、分析結果に基づく具体的な施策について伺う。 ウ) 令和4年度から始まった本市のオーラルフレイル予防事業は、令和5年度の決算審査において、予想以上の成果を出している。この取組の成果が高齢者の健康寿命を伸ばすことに対して、どのように寄与することができるのかを伺う。 エ) オーラルフレイル予防が、医療費や介護給付費の負担軽減につながる可能性がある。実施して期間は短いですが、本市ではその関連性をどのように分析しているのか。その成果を今後どのように活用していく予定なのかを伺う。 オ) 健康寿命を伸ばす3要素だとか、要介護状態になることを防ぐ3つの柱が「運動」「食生活」「社会参加」と言われている。健康寿命の観点からオーラルフレイル予防の重要性を感じるが認知度が低いと思う。本市の状況を伺う。認知度の向上の取組や重要性を理解してもらうための新たな施策を検討しているのかを伺う。 カ) 令和5年度市町歯周病検診（健康増進事業）に係る調査結果より質問する。歯周ポケットと年齢を見ると、加齢とともに歯周ポケットが深いことが読み取れる。だからこそ、オーラルフレイル予防事業に、高齢者の方が積極的に参加することが重要である。予防の重要性など感じていない層等へのアプローチは必要と思うが、本市の考えを伺う。

保健・医療						<p>キ) 令和5年度市町歯周病検診（健康増進事業）に係る調査結果より質問する。歯周ポケットと年齢を見ると、60歳以前から深くなる実態がある。中学生や高校生の年齢から増えてくるとも聞いている。となると若いころからの歯周病予防も必要だと思う。私たちが自分自身で行うことができるケア（セルフケア）の習慣の普及についてどのように考えているのかを問う。</p> <p>ク) 健康寿命を伸ばす3要素の1つに栄養だとか、歯や口腔がある。成果を出しているからこそ、オーラルフレイル予防事業の拡充をするべきだと思うが本市の考えを問う。事業の拡充の予定がないのであればその理由を問う。</p>
				2 交通最強の都市・三次の実現の可能性について	(1) まちづくりと地域公共交通のあり方について	ケ) 高齢者の健康寿命を伸ばしていく要素に社会や人との繋がりがあがる。加齢によって心身機能が衰えていくと環境の向上で補わないと自信や意欲の低下につながると考える。第9期介護保険事業計画の63ページには高齢者の移動支援の充実の記載がある。運転免許証を自主返納された高齢者の暮らしを支え続けられる持続可能な地域公共交通体系の形式に取組むとあるが、具体的な考えやまちづくり交通課との連携について問う。
福祉						
多文化・共生	⑧	清友会	重信 好範	2 男女共同参画について	(1) 三次市男女共同参画基本計画（第4次）について	<p>ア) この基本計画の検証と課題をどう分析されているのか伺う。</p> <p>イ) 計画の体系の現時点での成果を伺う。</p> <p>ウ) 総合指標の目標数値は目標どおりか伺う。</p>
					(4) 女性応援メニューについて	ア) 3月8日の国際女性デーにあわせて市内の美術館など施設を女性の入館料を無料にしてはどうか伺う。
	⑩	明日への風	増田 誠宏	3 企業との連携協定について	(1) 株式会社アイドマ・ホールディングスとの地方創生にかかる連携協定について	<p>イ) 多様な働き方の実現に関することを連携項目の1番に掲げている。本市として具体的にどのような取組を考えているのか。</p> <p>ウ) 「女性が働きながら子育てできる環境日本一」の実現に向けて、どのように男女共同参画・女性活躍支援へつなげていくのか。</p>
⑪	明日への風	掛田 勝彦	2 交通最強の都市・三次の実現の可能性について	(1) まちづくりと地域公共交通のあり方について	コ) 交通ネットワークの維持や地域公共交通の問題は、高齢者の方だけではなく、障害者の方や若年層で車を持っていない方、そもそも免許証を持っていない方にも関係する話である。様々な人が分け隔てなく暮らしていくことができ、様々な人々の能力が発揮できる共生社会の実現にもつながると考える。共生社会の実現と交通についての本市の見解を問う。	

安全で快適な生活環境

分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
自然環境				—	—	—
生活基盤	①	会派 未来	竹田 恵	2 広島県の宿泊税導入に伴う本市への影響等について	(2) 観光地として魅力ある三次づくりについて	ア) 宿泊税による基盤整備の充実・広報強化を行う計画があるのか。
	⑤	三輝会	弓掛 元	2 地域交通の刷新について	(1) 市内中心部の地域公共交通の見直しについて	ア) 路線バスからタクシー利用への転換等、市の考えについて伺う。
	⑥	三輝会	月橋 寿文	1 人と犬・猫の調和のとれた共生社会について	(1) 野良猫被害への対応について	ア) 野良猫などの苦情は、年々増加傾向で、毎日4～5件の電話が続く時もあり年間では200件以上と聞く。それに対する環境政策課の個別対応は、どのようになっているのか伺う。
						イ) 無責任なエサやりをしないことや室内で猫を飼うこと、また不妊去勢手術を行うことなどの啓発活動や指導は、どのように実施しているのか伺う。
					(2) わんにゃんサポーター制度について	ア) ボランティアサポーターへ13名が応募し、養成講座を終えられた。今後の活動内容は、いつ頃からどのように変わってくるのか伺う。
						イ) 将来的には、ペットの世話が難しい市民のために散歩代行などを考えていると聞く。その場合、市が動物取扱業2種（非営利）を取得する必要があるが可能なのか伺う。
					(3) 地域猫活動について	ア) 広島県地域猫制度の第1号は、三次市であり、地域猫活動をされている地区は、今や県内4位の40か所になっている。活動を続けるにあたっての課題や問題はありますか伺う。
						イ) 地域猫の申請をした場合、県の地域猫不妊去勢治療費が適応され、負担金はない。しかし、年間700頭分で、毎年半年で無くなってしまふ。予算が無くなった場合の対応は、どのようになるのか伺う。
	ウ) 不妊去勢の補助金を独自で作っている県内自治体は、尾道市、東広島市、廿日市市、呉市、庄原市、北広島町、神石高原町、府中町と年々増えているが、本市独自の補助金制度は考えられないか伺う。					
	エ) 多頭飼育を防ぐためや地域猫の申請が出来ない地区などに向けて、飼い猫も不妊手術が格安で受けられる一斉TNR（捕獲・不妊化・戻す）の実施を市で行う予定はないのか伺う。					
(4) 飼育継続不可の対応について	ア) 三次市で発生する飼育継続不可（所有権放棄）が今年度県内上位となっているが、それに対する対応はどのようになっているのか伺う。					
2 ふるさと納税について	(1) ふるさと納税の現状と今後について	キ) 野良猫問題、多頭飼育崩壊問題、飼育継続不可問題などを解決していくための新たなふるさと納税の開発が、環境政策課と共にできないか伺う。				
⑨	清友会	保実 治	1 三次町「もののけ前」バス停について	(1) 昨年12月議会一般質問に対する追加答弁について	ア) 市民・住民の声に対し、どのようにするのか伺う。	
			4 有害鳥獣対策について	(1) 現状と来年度に向けての新たな対策について	オ) 市民部（クリーンセンター）の焼却対応について伺う。	
⑩	明日への風	増田 誠宏	1 過疎地域持続的発展計画に基づく主要事業について	(3) 過疎計画事業の施設整備における主な事業について	ア) 令和3年11月に示された主な事業7項目について、現時点で計画通りに進捗しているのか。	
					イ) 7項目の一つである保育所改修等事業について、改修・建替え等をどのようなスケジュールと方針で進めていくのか。	

						ウ) 道路・橋梁、消防・防災関連事業について、特に生活道路の整備については、地域からの要望にできるだけ応えていく必要があるのではないか。		
						エ) 過疎対策事業債について、計画期間における毎年の発行額の見込みはどの程度か。		
						オ) 過疎計画事業の推進方針によると、令和13年度以降、市全域の指定が困難であると示されているが、現時点でもその認識に変わりないのか。また、指定されなかった場合、ソフト事業も含めてどのようなになるのか。		
						4 芸備線他、都市間輸送について	(1) 広島空港との連絡について	ア) 広島空港との移動手段の確保が、本市の都市機能の維持・発展のため必要ではないか。
						(2) J R芸備線について	ア) 現在、再構築協議会やまちづくり交通協議会（任意協議会）にて協議されているが、どのようになっているのか。本市も加わっているがどのような意思表明をしているのか。	
						イ) ラッピング列車、観光列車、イベント開催、さらにはJ R西日本の株式取得など、ローカル線を抱える各路線では様々な対策を行っている。本市とて同様な取組をしていく考えはあるのか。		
						ウ) 二次交通の確保は、パーク&ライドの活用とともに利用促進に効果的であり、特に、三次駅周辺の市街地においては有効性が高いと考える。こうした取組を強化する必要があるのではないか。		
						エ) 利用しやすい列車ダイヤに向けて、市としてどのようにJ R西日本と協議・要望しているのか。具体的な協議の状況とその結果について伺う。		
						オ) 本市の都市機能を維持・発展させるためには、三次・広島間の時間短縮と機能向上が重要な課題である。この実現に向けて、本市としてのこれまでの取組と今後の具体的な方針について伺う。		
						⑩	明日への風	掛田 勝彦
					イ) 「本市は中国地方の真ん中に位置し、二本の高速道路がクロスしている」この強みについて、どのような議論が行われているのか。この強みを活かすための計画や方針についての議論がされているのか。この強みを活かす具体的な施策を問う。			
					エ) 市街地から周辺地域への公共交通機関のアクセスが悪く、現地に行きたくても行けない状況がある。行っても滞在時間が短く地域経済に寄与しないケースもある。ツナガリ人口拡大のためにも、周辺地域への交通アクセス改善についての方策を問う。			
					カ) 本市の地域公共交通の課題や問題点については、現状の課題解決と将来のビジョンの両方を見据える必要がある。短期・中長期・長期といった具体的な計画と目標設定が必要だと思うが、本市の考えを問う。現行の公共交通計画の策定から4年が経ち、今年度から「まちづくり交通課」もできたが、この間の議論の内容や成果について伺う。			
					キ) 「交通最強の都市・三次」を標榜できる可能性がある中で、市内の公共交通の利便性や脆弱さが問題と感じている。交通業者を保護しながら、市内全域を周遊し移動できる運行形態は実現できないのか等、本市の考えを問う。また、予算の制約がある中で、どこまで市民の利便性を保障できるのかを問う。			
防災減災・安全	⑦	三輝会	藤井憲一郎	2 組織・機構変更後の支所機能について	(1) 市の組織・機構の現状と課題について	ア) 災害発生時の連絡手段について協議はなされているか。		
	⑬	明日への風	藤岡 一弘	4 内水氾濫対策について	(1) 仮設排水ポンプの設置基準について	ア) 三次市では、内水対策として操作性、経済性に優れた商用電源を使用した仮設排水ポンプを設置している。内水被害軽減のため、仮設排水ポンプを設置して欲しいという声を聞くこともあるが、三次市での仮設排水ポンプの設置基準がどうなっているのか伺う。		
					(2) 田んぼダムの効果について	ア) 流域の雨水貯留機能の向上として田んぼダムが実施されている。実施した効果と今後の展開について伺う。		

子どもの未来応援

分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
子育て	③	公明党	片岡 宏文	2 子育て支援の取組について	(1) ネウボラ事業の利用状況と課題について	ア) 本市の産後ケアの利用形態と実績について伺う。
						イ) アウトリーチ型の訪問はどこから派遣されているのか伺う。
						ウ) 産後デュラールの育成を取り入れる考えはないか伺う。
					(2) ネウボラDXの運営について	ア) ネウボラDXの運用状況と課題について伺う。
						イ) リスクの内容と対象年齢を伺う。
						ウ) 2026年度にスタートする誰でも通園制度の準備はできているのか伺う。
	⑧	清友会	重信 好範	1 こども家庭センターの現状について	(1) こども家庭センター設置後の取組について	ア) 設置後の効果と課題を伺う。
						イ) 課題解決にむけての取組を伺う。
						ウ) 相談内容から本市の特徴をどのように分析されているのか伺う。
					(2) こども家庭センターの運営について	ア) 各種相談に対応できる運営になっているのか伺う。
イ) 「児童育成支援拠点事業」「親子関係形成支援事業」の推進の取組について伺う。						
(3) 子育て世帯訪問事業について	ア) 法改正を受けて本市での実施状況を伺う。					
	イ) この事業の課題を伺う。					
(5) ネウボラみよしとの連携について	ア) 連携についての考えを伺う。					
	ア) 連携についての考えを伺う。					
教育	①	会派 未来	竹田 恵	1 本市の定住・移住対策支援事業等の現状における課題とその対応策について	—	ア) 三次市教育奨学金の貸付型及び給付型の申請・給付状況について、その実績値をそれぞれ、どのように分析されているのか。

②	会派 未来	新田 真一	1 三次市小中学校在り方方針策定委員会素案について	(1) コミュニティスクールの目的と方針について	ア) 地域と連携し行事や教材作りなどが各学校で行われている。統合により地域が広くなりそれぞれの学校で行われてきた、地域の教育が薄れていかないか。
					イ) コミュニティスクールの再編が言われているが、学区が広域になる事での長所と短所はなにか。
					ウ) 三次市総合計画の持続可能なまちづくりに反する取組に繋がらないか。
				(2) 小規模特任校・学びの多様な学校について	ア) 小規模特任校の設置に検討とあるが、すでに市内の学区は自由化されている中で検討する内容は何か。
					イ) 学びの多様な学校は設置の検討をするのか、県が進めるSSRと何が違うのか。
					ウ) 上記2つの学校の検討は、本市の実情にふさわしいか検討がなされるべきである。実情をどうとらえているのか。
				(3) 複式学級のメリット・デメリットについて	ア) 教職員の負担が方針では強調されているが、実態とは違っていないか。
				(4) 在り方方針検討委員会で、論議されたであろう課題について	ア) 十日市小中は「リーダー校」か、何を基準にして決めるのか、どのような役割があるのか。
					イ) 学校の再配置にリーダー校としての役割や、市に中心地にあることから、自由化による入学希望への影響は無いのか。
				(5) この方針が地域・保護者に及ぼす影響と理解と協力を得るための取組について	ア) 2012年の答申では、中学校の統合は地域コミュニティの崩壊につながるとして論議しないと報告されている。検討委員会の論議と統合に関わる課題をどう捉えているのか。
					イ) 2022年の答申では、学区自由化は検討すべきで、その上で小規模特任校を検討在り方方針委員会の論議はどうだったのか。
					ウ) 現在の学校の保護者と地域、保護者同志、統合する学校間の保護者地域、統合先の保護者地域、さまざまに意見が分かれる可能性がある。どう整理していくか。
				(6) 「教育政策研究会」の役割と期待する研究テーマについて	ア) メンバーは著名な研究者や優れた実践者で構成されている。この研究が本市の学校の在り方についてどう生かされるのか。
					イ) 小規模校の教育や地域と協働による実践などは研究テーマになるのか。
				(7) 在り方素案に対する現在の市長の見解について	ア) 共創のまちづくり、持続可能なまちづくり、地域と学校の交差点を言いながら、真逆の政策である。地域においては、保護者と地域、学校の統合については地域間の分裂に繋がらないか危惧する。それでもこの方針に従うなら市長の覚悟を問う。
⑨	清友会	保実 治	4 有害鳥獣対策について	(1) 現状と来年度に向けての新たな対策について	エ) 教育委員会の認識について何う。
⑩	明日への風	増田 誠宏	1 過疎地域持続的発展計画に基づく主要事業について	(1) 小中学校老朽化対策事業の今後について	ア) 老朽化対策として整備を行う学校について、個別の実施計画は策定されているのか。また、今後の施設整備の方針も示していく必要があるのではないか。
					イ) 三次市立三次中学校の今後の整備について、再編の相手校として位置付けるのであれば、早期に建替えを検討していく必要があるのではないか。

				(2) 十日市小学校等改築事業について	<p>ア) 建替え事業においては、再配置対象校の関係者の意見を十分に反映させることが重要ではないか。</p> <p>イ) 再配置の進め方としてスクールバス等の設定をすとされているが、建替え事業の中で、進入路の確保などの整備をしていく必要があるのではないか。</p> <p>ウ) 十日市小中学校PTAより要望書が出されている。今後、建替え事業を進めていく中で、それに添えていく考えはないのか。</p> <p>エ) 十日市小中学校の建替えについて、三次市のリーディングスクールとして整備に取り組んでいくとされているが、それにふさわしい施設整備を行う考えはあるのか。</p>
⑫	明日への風	徳岡 真紀	2 文化財の保存と活用について	(1) 本市の文化財保存と活用の取組について	イ) 本市のシティプロモーションのロゴにもなっている鶴飼をはじめとする文化財の教育分野での活用が必要ではないか。
			3 子どもを取り巻く環境の改善について	(1) 教育にかかる経済的負担の軽減について	<p>ア) 長引く経済状況から、子育て世代の生活は厳しく、教育費の負担が重荷になっているという声を聞く。家庭の経済事情に左右されることなく、誰もが希望する質の高い教育が享受されるべきだが、現状をどう把握しているか。</p> <p>イ) 入学の際の制服やランドセルなどの経済的負担は非常に大きい、制服の選択制、カバンなどの自由化の考えはないか。</p> <p>ウ) 毎月教材やテストなどの購入費に充てられている学級費の負担も学校や担任の裁量によるところが大きい、補助制度などの考えはないか。</p> <p>エ) 近年問題になっている「体験格差」についてどのようにとらえ、教育現場での取組について伺う。</p>
⑬	明日への風	藤岡 一弘	1 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針(素案)について	(1) 小中学校の再配置の性質について	ア) 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針(素案)の中に、小中学校の再配置の方針が示されている。小中学校の統廃合も行われるわけであるが、小中学校の再配置における、学校の統廃合は吸収合併と対等合併のどちらであると考えているのか。
				(2) 地域学習やコミュニティスクールの継続性について	ア) 学校の再配置が行われた場合、現在行われている小中学校での地域学習や中学校区でのコミュニティスクールでの取組の機会が失われるのではないかと不安である。これまで、地域と各学校で築いてきた地域学習の機会をどのように継続していくのか伺う。
				(3) 小規模校を望む声への対応について	ア) 令和6年度実施「三次市の教育に関するアンケート」でも、1学年1クラスへの選択肢を望む声も大きい。そういった小規模校を望む声に対して、どう対応していくのか考えを伺う。
				(4) 児童生徒・保護者・地域への周知について	<p>ア) 今後、三次市立小中学校のあり方に関する基本方針(素案)を児童生徒・保護者・地域住民など当事者である市民に知ってもらうための周知への取組をどのように計画し、実施しているのか。</p> <p>イ) 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針(素案)に児童生徒・保護者・地域住民など当事者である市民の意見や考えを集める機会をどのように計画し、実施しているか。</p> <p>ウ) 市民が参加できる「市民説明会」が2か所のみ(三次市福祉保健センターとよっしゃ吉舎)となっている。三次市全体の小中学校の再配置に係ることなので、地域毎の説明を行うべきと考えるが所見を伺う。</p>
			2 不登校支援について	(1) 三次市不登校支援・相談ガイドの作成の目的について	ア) 令和6年12月に各学校から三次市不登校支援・相談ガイドが児童や生徒に配付された。この三次市不登校支援・相談ガイドは、どのような効果を期待して作成したのか。作成の目的と狙いを伺う。
				(2) 三次市不登校支援・相談ガイドの周知と理解について	ア) この度作成されたガイドは、全ての家庭(保護者)や関係者に配付されているのか。特に、当事者やそのご家族など、情報を必要としている人に届いているのか。相談ガイドの周知と理解についてどのように把握をしているのか伺う。

				(3) 三次市不登校支援・相談ガイドの今後の展開について	ア) 先程この度のガイド作成の目的を伺ったが、ガイドを作成し、配布して終わりでは、ガイドの存在自体が忘れられる恐れもある。三次市不登校支援・相談ガイドを利用した今後の不登校支援の展開をどのように考えているのか伺う。
				(4) 現場での理解促進について	ア) [現場での理解促進について] 学校への行きしぶりや不登校など相談について、児童生徒や保護者からの一番の相談窓口になるのは担任の先生方や学校の先生方である。よって、このガイドを含めた不登校支援の内容を窓口となる先生方や関係者の方が理解をしていることが求められる。窓口となる先生方や関係者へのガイド・支援内容の理解を深める取組みをどのように考えているのか伺う。
				(5) 学びの多様化学校(不登校特例校)の導入について	ア) 「みよし学びの共創プラン」や「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針(素案)」の中でも、多様な居場所の創出として学びの多様化学校への導入の検討を行うとしている。これまでの、定例会や教育民生常任委員会閉会中審査での議員からの質問への答弁として、「学びの多様化学校のメリット・デメリットを検討する中で、三次市に合った不登校支援につなげていきたい。」があった。三次市の不登校支援を考える中で、学びの多様化学校の導入がもたらすメリットとデメリットをどのように考えているのか伺う。  イ) 学びの多様化学校の導入検討の協議の進捗状況と今後の検討や導入へのスケジュールをどのように計画されているのか伺う。
			3 三次市の学校給食について	(1) 三次学校給食センターの効果と目的の達成について	ア) 令和5年9月から三次学校給食センターが稼働し、現在、当初の給食提供エリアである旧三次市に君田地域、三和地域を加えた小学校14校、中学校7校の学校給食を提供している。新しい三次学校給食センターによる給食提供が開始して1年が過ぎ、当初の「新たに学校給食調理場を整備する効果(シリーズ学校給食調理場vol2より)」など、効果が発揮され、目的が達成できているのか検討すべきだと考える。そこで、現在の三次学校給食センターによる給食提供の状況や当初の効果が発揮され、目的が達成されているのか伺う。学校給食調理場vol2より)」など、効果が発揮され、目的が達成できているのか検討すべきだと考える。そこで、現在の三次学校給食センターによる給食提供の状況や当初の効果が発揮され、目的が達成されているのか伺う。
				(2) 学校給食の食べ残しについて	ア) 環境省の調査によると、調理くずや食べ残しなどの学校給食における食品廃棄物の発生量は、年間児童1人あたり17.2kgである。この食品廃棄物の発生量はフードロスの観点からも可能な限り、抑える努力をしなければならないと考える。三次市での学校給食の1人当たりの食べ残し量など食品廃棄物の発生量はどのような状況か。そして、今後の食品廃棄物の発生量をどう抑制していくのか伺う。
				(3) 給食時間の確保について	ア) 食べ残しについて、給食時間が短いと、低学年の児童や食べるペースがゆっくりな児童生徒は完食できない場合もある。特に、三次学校給食センターの提供エリアの小中学校では、遠方まで食器・食缶の配送・回収を行う学校もあるので、給食時間が短いなど、食べ残しが発生しやすい状況になっていないか心配な面もある。児童生徒に適した給食時間の確保がなされているのか伺う。
				(4) 地産地消について	ア) 「新たに学校給食調理場を整備する効果(シリーズ学校給食調理場vol2より)」として、地産地消の拡充があげられている、三次産品を使った食材を使用した地産地消の取組みはどのようなものか。そして、今後の取組について伺う。
				(5) アレルギー対応について	ア) 重度の食物アレルギーや宗教等により学校給食の提供を受けることができず、その代替として毎日「完全弁当」を持参する家庭への補助制度の新設は検討できないか所見を伺う。

豊かな心といきがい

分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
芸術・文化	⑫	明日への風	徳岡 真紀	2 文化財の保存と活用について	(1) 本市の文化財保存と活用の取り組みについて	ア) 本市には歴史的にも文化的にも非常に貴重な文化財が多数存在するが、本市の保存と活用の方向性について伺う。
					(2) 埋蔵文化財の保存と活用について	ア) 現在の埋蔵文化財の保存のプロセスと活用の状況について伺う。
						イ) 埋蔵文化財の保存や活用は開発や都市計画にも関わるため、教育委員会だけでなく関係部局と庁内で横断的に取り組む必要があるのでは。
						ウ) 県内でも突出した古墳の数を誇る本市において埋蔵文化財を観光資源や教育資源として総合的な活用ができていますか。
エ) 埋蔵文化財保存に予算的な措置を県や国に求めていくべきではないか。						
スポーツ	⑦	三輝会	藤井憲一郎	3 女子野球タウンの取組について	(1) 女子硬式野球チーム「三次ブラックパールズ」に対する市の関わりについて	ア) 現状と課題について伺う。
					イ) 企業との連携は進んでいるのか。	
						ウ) 女子野球クラブのある高校や大学などアプローチは。
	⑧	清友会	重信 好範	2 男女共同参画について	(2) 男女共同参画社会実現について	ア) 女子野球を通して男女共同参画実現に向けての考えを伺う。

いきいきとした地域

分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
定住・交流	①	会派 未来	竹田 恵	1 本市の定住・移住対策支援事業等の現状における課題とその対応策について	—	イ) 全国の自治体の中では、移住・定住対策の側面を持たせた支援策として『奨学金返還支援』の取組を実施している。本市としても、今後の人口の減少を緩和する意味でも支援内容の充実が必要だと思うが、それに対する考えを伺う。 エ) 次の移住対策の補助金の申請・活用状況について、総合的に判断して目的を達成するものとなっているのか見解を伺う。また、現状の利用条件の緩和における、申請者の拡大についての考えを伺う。 ・三次市移住者住宅取得奨励金 ・空き家バンク改修補助金 ・Uターン者実家等改修補助金 ・移住者支援金制度
	⑤	三輝会	弓掛 元	1 三次地区の諸問題について		ア) 危険空き家問題における現状とその対策について伺う。
	⑥	三輝会	月橋 寿文	2 ふるさと納税について	(1) ふるさと納税の現状と今後について	エ) 藍染体験や鶺鴒乗船体験、カヌー体験や酒蔵見学体験、きんさい球場での始球式体験などワクワクする体験型のメニューを開発していく予定はないか伺う。
	⑧	清友会	重信 好範	3 地域おこし協力隊について	(1) 地域おこし協力隊の現状と課題について	ア) 6名の隊員の活動内容について伺う。 イ) この制度により隊員・地域・行政にとつての成果と課題を伺う。 ウ) OB、OG隊員との意見交換会や交流会は開催ができないか伺う。 エ) 地域おこし協力隊の活動報告会ならび市民周知の状況について伺う。 オ) 任期後の課題となるが、起業支援補助金制度を利用して定住につながっているのか伺う。 カ) 今後の隊員の増員は考えているのか伺う。
	⑩	明日への風	掛田 勝彦	2 交通最強の都市・三次の実現の可能性について	(1) まちづくりと地域公共交通のあり方について	ウ) 本市の人口減少問題とシティプロモーションの視点で問うが、選ばれるまちになるためには、関東圏や都市部との差別化や先鋭化をばざるをえないのが地方都市の状況である。本市の地域特性を活かした「交通最強の都市・三次」の実現に取り組む考えはないのか。交通ネットワークの強化は、移住・観光・交流人口の増加にもつながり、本市の持続可能性にも大きく寄与すると考えるが、本市の所見を伺う。
	⑪	明日への風	掛田 勝彦	2 交通最強の都市・三次の実現の可能性について	(1) まちづくりと地域公共交通のあり方について	ウ) 本市の人口減少問題とシティプロモーションの視点で問うが、選ばれるまちになるためには、関東圏や都市部との差別化や先鋭化をばざるをえないのが地方都市の状況である。本市の地域特性を活かした「交通最強の都市・三次」の実現に取り組む考えはないのか。交通ネットワークの強化は、移住・観光・交流人口の増加にもつながり、本市の持続可能性にも大きく寄与すると考えるが、本市の所見を伺う。

住民自治	③	公明党	片岡 宏文	1 ふるさと納税の取組について	(1) 本市でのふるさと納税の取組と成果について	ア) ふるさと納税推進業務を委託後の進捗と昨年度比の実績について伺う。 イ) 商品提供している事業者数と商品数の推移について伺う。 ウ) 今後の目標について伺う。 エ) 令和2年度以降の活用実績を伺う。 オ) ふるさと納税推進業務委託の契約内容、契約期間、契約報酬について伺う。
					(2) 企業版ふるさと納税の現状について	ア) 現在までの寄付額累計と活用実績について伺う。 イ) 人材派遣型の寄付の現状を伺う。
					(3) クラウドファンディング型ふるさと納税の取組について	ア) 現状の件数について伺う。 イ) 今後の目標についてどう考えているのか伺う。 ウ) ふるさと納税3.0について本市として取り扱い出来るか見解を伺う。
	⑤	三輝会	弓掛 元	1 三次地区の諸問題について		ア) 河内地区まちづくり連合会の駐車場の譲渡について伺う。 イ) 河内保育所の再利用について伺う。
	⑥	三輝会	月橋 寿文	2 ふるさと納税について	(1) ふるさと納税の現状と今後について	ア) 三次市ふるさと納税推進業務公募型プロポーザルで選定され業務を委託された株式会社スチームシップが、昨年10月から稼働しているが、どのように評価しているか伺う。 ウ) 4年前、コロナの影響で帰省が困難になった大学生など向けに、三次市ふるさと学生応援事業が行われた。大変人気で学生たちも喜んでくれたが、三次ふるさとセットの開発の考えがあるのか伺う。 カ) 旅行や出張で来られた方が、その場で簡単に寄付できる旅先納税の導入の考えはないか伺う。
					(2) ふるさと創生基金について	ア) 基金を何にいくら使用していくのか具体的な事前計画ができない理由は何か伺う。 イ) ふるさと創生基金は、事業ごとに11項目に分かれているが、組換えや事業の変更などをして使いやすい基金にできないのか伺う。
	⑨	清友会	保実 治	4 有害鳥獣対策について	(1) 現状と来年度に向けての新たな対策について	ウ) 地域共創部が所管する事業に関しての有害鳥獣被害に対する認識について伺う。

	⑩	明日への風	増田 誠宏	3 企業との連携協定について	(1) 株式会社アイドマ・ホールディングスとの地方創生にかかる連携協定について	ア) 本市として現状、どのような課題があると認識して連携協定の締結をしたのか。また、総体的にまちづくりに向けて、どのような目的があるのか。
	⑪	明日への風	掛田 勝彦	2 交通最強の都市・三次の実現の可能性について	(1) まちづくりと地域公共交通のあり方について	ク) 生活をしていくうえで買い物と交通は重要であると考えている。また、地域コミュニティを維持していくためにも早急な対応が必要である。住民の生活を守るということについて、どのような考えをお持ちなのか。市民の安心感を高めるような短期的な、この課題への現状の議論や課題解決に向けての取組み内容を伺う。
	⑫	明日への風	徳岡 真紀	1 市民と共に創るまちづくりについて	(1) 市民参加型のまちづくりについて	ア) 寄せられた市民の声をどのように政策に反映しているのか、見える化が必要ではないか。(大阪市—市民の声どのように反映したか見えるか)
						イ) 協働のまちづくり推進において、市民参加型予算や政策提案のしくみの必要性があるのではないかと。
						ウ) 子ども議会など、子どもたちの提案を市政に反映するためのしくみを取り入れてはどうか。

活力ある産業

分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
農林畜産	①	会派 未来	竹田 恵	2 広島県の宿泊税導入に伴う本市への影響等について	(1) 宿泊税導入に伴う本市の今後の影響について	ア) 宿泊施設への課題を市としてどのように捉えているのか。また、そのことへの対応策として、検討されていることはあるのか。
						イ) 市民への周知については、いつ、どのような手段で行う考えなのか。
				(2) 観光地として魅力ある三次づくりについて	イ) 新たな観光資源を発掘する戦略があるか、考えを聞く。	
	③	公明党	片岡 宏文	3 農業振興事業の取組について	(1) トレッタ三次の運営状況について	ア) 売上額の市内出品者と市外出品者の割合はどうなっているのか伺う。
						イ) 出品手数料はどうなっているのか伺う。
				(2) 今後の米作農業の在り方について	ア) 他市では2期作やマイコス米の実証、検証されているが本市での取り組みはどうなっているのか伺う。	
	④	日本共産党	伊藤 芳則	1 食料自給率の向上について	(1) 食糧・農業・農村基本法の改定について	ア) 食料自給率の向上にふれていないことについて、どのように考えるのか。
					(2) 農家への支援について	ア) 農業従事者は減少について、今後の対応はどのように進めていくのか。
						イ) 支援がなければ小規模農家は消滅する。対策が必要ではないか。
						ウ) 鳥獣被害対策の強化が必要ではないか。
						エ) 有機農業への支援、研修会の開催で安心安全な食材提供を進めてはどうか。
(3) 農作物の高騰対策について					ア) 米価がどうなるかわからない。下落対策が必要ではないか。	
	イ) 主食である米価高騰対策の支援が必用ではないか。					
		ウ) 地産地消で地元利用の再生産可能な販路の拡大が必要ではないか。				
			(4) 自給率向上を図る取組について	ア) 本市の農業活性化のためにも「自給率向上都市宣言」につなげていく考えはないか。		
⑨	清友会	保実 治	4 有害鳥獣対策について	(1) 現状と来年度に向けての新たな対策について	ア) 経費と捕獲実績、被害状況について伺う。	
					イ) 建設部の所管する事業に関しての有害鳥獣被害に対する認識について伺う。	

						ウ) 周辺自治体との協力体制の必要性についてはどう考えるか。
					(2) 有害鳥獣被害防止柵設置事業について	ア) 個人・集落に対する補助金について伺う。
					(3) クマ対策の今後について	ア) 県との連携について伺う。 イ) 備北3市での連携について伺う。
商工	⑤	三輝会	弓掛 元	4 企業支援について	(1) 本市における支援について	ア) アフターコロナの企業支援について伺う。 イ) 開業間もない事業者支援について伺う。 ウ) 独立開業支援について伺う。 エ) 建設・土木業界への支援について伺う。
						イ) 本市には、魅力的な商品が、まだまだ多く存在する。商工会議所や広域商工会、JAなどと協力して、取扱業者を掘り起こしていく必要があるが商工観光課の協力体制を伺う。
						エ) 人手不足の状況において、商工労働の観点から、この協定をどう活かしていくのか。どう取組を事業者と結び付けていくのか。
						オ) 本市の人口減少にブレーキをかけるためにも、産業や所得の向上の必要性はある。企業誘致について考えた場合、昔に比べハードルが高い現状があるのも事実である。本市がもつ圧倒的な交通の拠点を活かし、物流企業による多様な雇用と地域経済の活性化についての施策や物流産業を中心とした施策をどのように考えるのか。本市の見解を伺う。
観光	⑥	三輝会	月橋 寿文	2 ふるさと納税について	(1) ふるさと納税の現状と今後について	オ) 君田温泉や古民家宿泊施設などの宿泊券のメニュー開発をしていく予定はないか伺う。
				3 みよし本通り商店街周辺のにぎわいづくりについて	(1) 三次もののけミュージアムについて	ア) 博物館敷地内のレストラン「もののけダイニング」が閉店して1年が経つ。公募型プロポーザルを行い、広く募集をかけ、早期に事業者を見つける必要があると思うが考えはあるか伺う。 イ) 現在、「もののけ怪道にあそぶ。」として、三次もののけミュージアム・水木しげる記念館・小泉八雲記念館の3館周遊バスポートが3月末まで販売中であるが、状況はどうか伺う。 ウ) ゲゲゲの鬼太郎が、三次もののけミュージアムに來たり、グッズの販売を行う、そして逆に、水木しげる記念館で、三次もののけミュージアムのグッズや三次のお土産が買えるような、3館が協力したワインウインの仕掛けができないか伺う。 エ) 三次地区自治会連合会やみよし本通り商店街、また商工会議所などと協力して、平日などの普段、地域住民の憩いの場や集いの場となるような活用方法が考えられないか伺う。
				(2) 三次町歴史的街なみ環境整備計画について	ア) 三次町歴史的街なみ環境整備計画の第2期の実施が令和6年度で終了となるが、現在までの評価と今後の予定を伺う。	
					(3) 旧白蘭酒造跡地の活性化策について	ア) 中国新聞の記事に、建設部あてに民間保育施設開設の要望書や跡地活用案が、三次地区自治会連合会や福祉・商工団体などから提出されたとある。どのような予定で協議を進めていくのか伺う。 イ) みよし本通り商店街周辺のにぎわいづくりは、三次のまちづくりの重点課題と捉えているが、市として今後どのような施策を考えているのか伺う。

その他						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
その他	①	会派 未来	竹田 恵	3 職員採用・退職など、今後の見通しと職員配置に関する考え方について	(1) 今年度末の退職者数及び新年度の採用者数について	ア) 現状の業務量と人員配置に合理性があるのか。 イ) 病院の採用困難な特定職種の採用拡大に向けた取組はどのように行い、結果はどのようになっているのか。
					(2) 時間外勤務縮減の取組について	ア) 具体的な内容について伺う。また、その取組によって時間外勤務縮減へ改善されているのか。
	⑤	三輝会	弓掛 元	3 所有者不明ほか土地の登記の促進について	—	ア) 相続登記の義務化を機会と捉えて、所有者不明、未相続対策の推進について市の考えを伺う。
その他	⑦	三輝会	藤井憲一郎	1 合併建設計画「新市まちづくり計画」の総括について	(1) 合併21年間のまとめと今後の展望について	ア) 三次市における合併特例債の発行限度額と、この21年間での発行総額を伺う。 イ) これだけの財源を投入して、21年間に渡って取り組んだ「新市まちづくり計画」について、市長の所感を伺う。 ウ) 市として「新市まちづくり計画」の総括はどのタイミングで、どのように行うのか。 エ) 合併特例債を活用し、計画の趣旨である「一体性の確立」と「均衡ある発展」に基づいた有効的な事業が十分実施されたとの認識か。 オ) 合併特例債を活用して行われた事業について、幾つか具体的な事業を挙げてその効果を傍聴者や視聴者をはじめ市民に紹介を。 カ) 当初計画期間終了の平成26年度に「フォロー事業」を取りまとめているが、実施状況について伺う。 キ) 未着手・未完了の事業について、今後の実施予定と予定財源を伺う。 ク) 合併特例債の元利償還金残高はどれくらいあり、償還へのスケジュールはどのように考えているのか。 ケ) 合併特例債を財源に積み立てた地域振興基金を、今後どのように活用するのか。 コ) 公共施設など大型事業にも充てられているが、維持管理などで財政を圧迫している物はないのか。 サ) 令和7年度は、一つの節目を迎えて新たなまちづくりのスタートとなるが、持続可能性を担保しながらどのように活力を見出し市民の幸せを実現していこうとするのか。 シ) 区切りを迎え、持続性を担保しながら活力を見出し、市民のしあわせをどう実現していくのか。
						2 組織・機構変更後の支所機能について

						ウ) 支所長会議の開催頻度を伺う。
						エ) 改変後1年を通しての問題点や課題などの総括を伺う。
	⑧	清友会	重信 好範	2 男女共同参画について	(3) 女性デジタル人材について	ア) 内閣府の女性デジタル人材育成プランと本市のDX推進計画は同じ方向に向かっているのか伺う。
						イ) 本市の男女共同参画プランと連動できるのか伺う。
					(5) 女性管理職登用への推進について	ア) 男女共同参画基本計画(第4次)から女性管理職登用の目標指数は達成できるのか。目標指数にむけての登用推進の考えを伺う。
						イ) 女性管理職に特化した研修プログラムは考えられないか伺う。
						ウ) 来年度新規採用職員の男女比率を伺う。
	⑨	清友会	保実 治	4 有害鳥獣対策について	(1) 現状と来年度に向けての新たな対策について	カ) 総務部へ対応する組織の提案について伺う。